

労働青少年の生活

1952年7月

労働省婦人少年局



この資料は、日本労作文化協会調査部の中込友美氏が東京都市近郊のA化学工場の青少年と東京都足立区のスタンダード高等学校（定時性）生徒をそれぞれ対象として働く青少年の生活の実態を調査し、その結果をとりまとめたもので、年少労作者に関心をもつ人々に参考資料として適当と思われるので、こゝにプリントしたものである。

労働青少年の生活 目次

第一輯	罪	5
第一部	青少年層の構成	6
1.	取組別、年令別	6
2.	卒業学校別	6
3.	在学状況と研究会講習会	6
4.	住居の状況	8
5.	通勤距離	9
第二部	労働と生活	9
1.	平日の生活時間	9
2.	休日の生活時間	11
3.	経済生活	13
4.	健康について	20
5.	取組について	21
6.	夜学校について	24
7.	自分の生活をもつとどうしたいと思うや	25
第三部	生活の中の教養	27
1.	読書について	27
2.	映画、劇場、寄席等の利用状況	29
3.	音楽会、美術展覧会等の参加状況	31
4.	社会教育施設の利用状況	32
5.	講演会	33
6.	ハイキング、旅行	33
7.	宗教行串	33
8.	クラブ、同好会の集り	33
9.	スポーツについて	33
10.	ラジオについて	34
11.	新聞について	35
12.	組合の機関誌について	35
13.	所属団体	36

14.	趣 味・嬉 好	36
15.	自分の研究したいこと	36
16.	生き甲斐を感じた日	37
17.	その他の質問から	37
	イ. 私の受諾書	
	ロ. 私の宗教	
	ハ. 尊敬する人物	
	ニ. 私の理想	
	ホ. 私の信念	
	ヘ. 支持する政党政治家	
	ト. 組合運動についての意見	
	チ. 青年婦人運動についての希望	

第 二 輯	扉	41
第 一 部	学習と教養学力	43
1.	年令および取 組	43
2.	住居と通勤状況	43
3.	在 学 状 況	44
4.	研究会講習会、通信の教育の利用	44
5.	平日の生活時間（日課、教育課程）	44
6.	休日の生活時間	46
7.	経 済 生 活	46
8.	健康について	49
9.	取 業 について	50
10.	学 習 について	52
11.	自分の生活をもつとどうしたいか	53
第 二 部	工場学校の中で	53
1.	読 書 について	53
2.	習っているもの	54
3.	映画館、劇場、寄席等の利用状況	54
4.	音 楽 会	55
5.	美術展覧会	55
6.	講 習 会	55
7.	社会教育施設の利用	55
8.	ハイキング、旅行	55
9.	宗 教 行 事	55

10.	クラブ、同好会、趣味の集り	56
11.	スポーツの集り	56
12.	ラジオについて	56
13.	新聞について	56
14.	所属している団体	57
15.	趣味、嗜好	57
16.	自分の研究したいこと	57
17.	最近においてとくに生き甲斐を感じた日	57
18.	その他の質問より	57
	イ、私の愛読書	ロ、私の宗教
	ハ、尊敬する人物	ニ、私の理想
	ホ、私の信念	ヘ、支持する政党、政治家
	ト、組合運動についての意見	
	チ、青年婦人運動への希望	

勞 働 青 少 年 の 生 活

第 1 輯

(本調査は都市近郊A化学工場において、満25才以下の従業員280名について行つたものである。(調査の時期は昭和26年4月)。調査に当つてはまず会社側の諒解と委託をうけ、組合側の青年婦人対策委員に調査の主旨と調査用紙の記入方法を説明し、その協力をうけて行つた。調査用紙の回収は159名分で、回収率は57%であつた。)

第一部 青少年層の構成

1. 取 種 別, 年 令 別

対象青少年159名の職場配置状況はつぎのとおりである。

業務課3, ガス9, 合成30, 硫酸18, 硫酸20, 磷肥10, 尿素9, 工作23, 設計5, 電気8, 熱管理6, 研究一11, 研究二7, 計159名。

年令別は、

満20才以下(以下Aとす)37名(うち女2名)。満20才以上25才以下(以下Bとす)122名(うち女5名)

であり、現在の大中工場において、欠員は成年者の経験工によつて補充され、年少者の新規採用は減少の傾向がみられる。

2 卒業学校別

(A)

新制(工業、化学)高校卒 50%。高等小学卒 30%。新制普通高校卒 8%。中卒 4%。工業学校卒 4%。高校中退 4%。

(B)

高等小学卒 42%。新制中卒 11%。新制高(工業、化学)卒 8.6%。旧制中卒 7.4%。工業学校卒 6.4%。商業学校卒及中退 4.4%。大学専門学校卒 4%。同中退 3.2%。その他(物理学校、電気学校、機械工養成所、農学校、師範学校、青年学校卒各1) 13%。

B層(20才以上)の最終学校別がきわめて複雑であるに対し、A層(20才以下)のそれがきわめて単純化されているのは、学制改革による当然の帰結であらう。

3. 在学状況, 研究会, 講習会

これらの青少年の現在の在学状況はどうであらうか。本工場は工場附属の学校を有せず、勤務は三直制になつているので、夜学校利用者は極めてすく

ない。勤労上差支えのない少数の者だけがそれを利用している。

(A)

日大高校普通科夜間部 1。 工業高等電気課 1。 洋裁学校(女) 1。

(B)

法政短期大学 1。 横浜商業 1。 校名不明 1。

等である。

その他の者の在学しないわけについての回答はつぎのとおりである。(第1表)

(第1表) 在学しないわけ

A (二十歳以下)	三直制と経済の都合で	4 6 %
	三直制のため	2 7 %
	学校は嫌いだ	9 %
	疲勞のため	9 %
	家事の都合で	9 %
B (二十歳二十五歳)	経済の都合で	4 5 %
	三直制のため	3 5 %
	健康の都合で	1 0 %
	適当な学校がないから	5 %
	私業と学校と両立しないから	5 %

三直利と経済の都合で 46%。 三直利のため 27%。 学校は嫌いだ 9%。 疲勞のため 9%。 家事の都合で 9%。

青少年期にあつて自己教養の必要を感じ、何学の意欲をうちにもちながら、その志望をさまたげているものは何人であろうか。その大体の見当はこれでわかる。

それでは夜学校にかわる自己教養の手段としての、通信教育、研究会、講習会、等が、かれらの生活の中でどれだけ利用されているだろうか。これもさわめて僅かなものにすぎない。

(A)

○参加している研究会へ 演劇研究会 1。 ○参加している講習会へ C。

IE 英語講習会 1。 ○参加している通信教育へ なし。

○参加していた研究会へ 地正研究会 1, 横浜天文同好会 1, 日本遺産研究会 1。 ○参加していた講習会へ サッカー講習会 1。 ○参加していた通信教育へ なし。

(B)

○参加している研究会へラジオ研究会1, 日本化学会1, カメラ研究会1, 横浜四弦会1, 茶道研究会(女)2, 書道研究会(女)1。○参加している講習会へなし。○参加している通信教育へ早稲田式速記1。○参加していた研究会へなし。○参加していた講習会へなし。○参加していた通信教育へ慶応義塾通信教育1。

この例によつてみても、社会教育面の活動の労働青少年層への浸透が、現在においていかに稀薄であるかがうかがわれ、また、僅かのせれらに参加していたものも、職業生活の進行とともに離脱している傾向がみられる。

4. 住居の状況

これらの青少年の住居の状況はどうか。これはつぎのようである。(A, B をともにして — 第2表)

(第2表) 住居の別

自	宅 (1)	6	4	%
兄、親	戚の家 (ロ)	1	2	%
知	人の家 (ハ)	1	3	%
会	社の寮 (ニ)	15	3	%
買	賃 (ホ)	6		%
社	宅 (ヘ)	1	3	%

(1) (ロ) (ハ) を (a) とし、(ニ) (ホ) (ヘ) を (b) として、一人当りの畳数の割合は次のようにみられる。(第3表)

第3表 一人当り畳数 (a)

一畳未満	2.7%	一畳～二畳	27%
二畳～三畳	43.2%	三畳～四畳	19%
四畳～五畳	2.7%	七畳～八畳	2.7%
十畳	2.7%		
全 (b)			
一畳未満	4%	一畳～二畳	12%
二畳～三畳	32%	三畳～四畳	8%
四畳～五畳	16%	五畳～六畳	12%
八畳～十一畳	12%		

5. 通 勤 時 間

住居について、居住地——取場の往復時間、あるいは、居住地——取場——学校の通勤、通学時間は毎日、どの位要しているか。これはつぎのとおりである。（第4表）

第4表 通勤、通勤通学往復時間（A、BともK）

30分未満	9%	30分～1時間	34.8%
1時間～2時間	35.6%	2時間～3時間	15.7%
3時間～4時間	4.6%	4時間以上	0

通勤通学等のために、時間的にひどく無理をしているものは極めて減少している。大部分が取場までの片道一時間以内のところに居住している。おそらくこれは会社側の採用条件が、工場周辺の居住者が近距離より通勤しうるものとなっている故であろう。このことは、今日の工場が地域社会と極めて深く結び合っているという点から注目されてよい点である。大部分の従業員が近接の地域社会に居住しているという事は、今後の工場性格の形成とも云うべき点に新しい意味をもつ。地域社会の生活と切り離して、今後の工場の在り方を考えることは出来ない。生産の行われる場と地域社会との、経済的、文化的支那をいかに取上げるかは、重要な新しい課題である。（教育もまたここに建てられる。）

第二部 労働と生活

1. 平日の生活・時間

(A)

イ. 前夜睡眠時間

第5表の1

8時間	38%	8時30分	26%	7時間	12%
9時間	12%	10時間	12%		

これは一直のときで、正常な睡眠時間をとつた場合である。

ロ. 出勤前

（一直のとき）洗面、身仕度、ラジオをきく、新聞をみる、犬と散歩をする、散歩をする等。

（二直のとき）この時は午後2時までに出社するのである。それまでの時間は

家事手伝い、雑用、ラジオをきく、新聞をみる、読書をする等がもつとも多く、その他は写真の現像をする、散歩等がある。

(三直のとき) 前夜終夜作業をして、この昼間は休養時間であるが、家事の手伝い、お花見にゆく等の記入が多い。

ハ、昼休み時間

排球、キヤッチボール、野球、ピンポン等のスポーツが大部分で70%、その他はダイヤモンドゲーム、将棋等の室内遊戯が20%、雑談10%の割合である。

ニ、終業より帰宅まで

(一直のとき) 入浴をするが70%でもつとも多く、運動が20%、組合運動が10%となっている。

ホ、帰宅、夕食后

(一直のとき) 新聞をみ、ラジオをきく、読書をする、雑誌をよむ、がもつとも多く、その他は、家で遊ぶ、会合に出る、研究会へ出る、化学に関する勉強をする、日比谷公会堂の音楽会へゆく、ダンスにゆく、ギターの練習をする、将棋をする、日記をつける等となっている。

二直の時は夜おそく帰宅する。その帰宅後は入浴をする、読書をする等がある。

(B)

以上の生活時間を(A)年令層に対し、(B)年令層を対比してみるとつぎのようになる。

(1) 前夜の睡眠時間(一直の時)

第5表の2

6時間半	8%	7時〜7時半	16%	8時〜8時半	34%
9時〜9時半	34%	10時間	8%		

(ロ) 出勤前

(一直の時) 洗面、身仕度、ラジオをきく、新聞をよむ、家事手伝いをする。

(二直の時) ラジオをきく、新聞をよむ、室掃除、手紙かき、読書、中学1年のテキストで学習をする、休養等となっている。

(三直の時) 前夜の終夜作業を終つて、つぎの夜勤に出るまえの時間かどのように過ごされているか。ここにその結果でみると

睡眠休養の時間が少く、ラジオをきく、新聞をみる、雑談等のほかに、読

書、レコード観賞、家事手伝、洗濯等が多く、その他では、散歩、書道練習、英語学校へゆく、自転車に乗り田舎へゆき、建築作業の手伝いをする等がある。

ハ、昼休み時間

B年令層も同じくバレー、野球、フットボール、ピンポン等が第一位で46%、その他は将棋、読書、雑談等が各18%である。

ニ、終業より帰宅までの時間

入浴66%、組合委員会の用務が12%、その他は野球試合、麻雀、読書、散歩等が各5.5%である。

ホ、帰宅、夕食後

夕食後の生活時間記入の割合はつぎのようになる。(第6表)

第 6 表 (B)

読 書	40%	新聞ラジオ	27%
日記をかく	5%	雑談、その日のことを話しあう	5%
家事手伝	5%	ラジオ組立	4%
宗教行事参加	2%	その日の反省	4%
映 画	2%	音楽の勉強	2%

ここで注目されることは、ラジオ、新聞のはかに、読書の時間が平均して高率を占めていることである。(A層においても)これは休日の映画観賞と好対象である。読書内容は文芸読みもの、雑誌等が大部分であろうが(後の「読書」の項参照)、読書時間は1時間以下は少数で、1時間乃至2時間以上が多い。

これらの生活時間を概観して、勞働する青少年らがその日常の生活をより理知的に組立てるための多くのことが考えられるのであるが、この中でもつとも関心をひくのは、二直者、三直者の就業前の生活時間の向題である、三文管勤務は誰にとつても望ましい勤務生活ではない。多くの生活上の不便や苦痛がそこに訴えられる。しかしそれが今日の生産現場における止むをえぬ要請であるならば、その変則の生活をいかに調整し、いかに効率的な休養をとり、それをよりよく活用するかの方策が、もつと真剣に立てられなければならぬ。少数例であるが、これをよき休養と自己教養の時間に活用しているものもある。

2. 休日の生活時間

(A)

休みの日の生活時間が何に多く使われているか。このまえの休日一日における記入者全体の生活時間の割合はつぎのようである。（第7表の1）

第7表の1 休日の生活時間（A）

映 画	22 %	ラジオをきく	11 %
読 書	12 %	野球をみる	9 %
ハイキング	8 %	友人訪問	6 %
家事手伝	4 %	買 物	4 %
ラジオ組立	2.7 %	野球見物	2.7 %
散歩	2.7 %	調 髪	2.7 %
菴	1.3 %	将 棋	1.3 %
銀 ば ら	1.3 %	お 花 見	1.3 %
麻雀	1.3 %	観 劇	1.3 %
音楽観賞	1.3 %	短 入 の 時 計 法	1.3 %
代数の勉強	1.3 %		

なおこれを、その休日に映画を観に行つたものと、行かないものとの割合をみると、

映画を観に行つたもの 58 %

をを観に行かなかつたもの 42 %

となり、過半の者が休日は映画をみている。

(B)

A年令層に対しB年令層の休日生活平均時間の割合はつぎのようである。（第7表の2）

第7表の2 休日の生活時間

読 書	17.4 %	映 画	15.5 %
ラジオをきく	7.7 %	家事手伝	7.2 %
訪問（友人、知人、旧師、病氣見舞）			6.3 %
野球等のスポーツ	4 %	街をぶらつく	3.4 %
洗 濯	2.4 %	レコード鑑賞	2.4 %
ハイキング	2 %	動物園ゆき	2 %
書道練習	1.5 %	身辺整理	1.5 %
麻雀	1.5 %	ダ ン ス	1.5 %
音楽練習	1.5 %	銀 ば ら	1.5 %
畑の手入	1 %	宗教行事参加	1 %

日記をつくる	／ ٪	酒場へゆく	／ ٪
上野美術館へ行く	0.5 ٪	将 棋	0.5 ٪
入学試験の受験	0.5 ٪	競技見物	0.5 ٪
観 劇	0.5 ٪	庭の手入	0.5 ٪
買 も の	0.5 ٪	農事の手伝	0.5 ٪
浅草ゆき	0.5 ٪	勉 強	0.5 ٪
テーマをきめての思考	0.5 ٪	研究会出席	0.5 ٪
その他の（雑用、休養、団らん等）			4.9 ٪

女子の場合は少数のため、この集計から除外してあるが、洋裁、和裁、家事手伝が多く、その他はメンス休養、洗濯等に使われている。

この層の場合の映画について、その休日に出かけざる、出かけないものの割合は、

映画へ行くものの	40 ٪
へ行かなかったもの	60 ٪

A層よりはいくらか低いが、こゝでも約半数に近い者が休日に映画館へ入っている。中には同日中に二回みている者も数例ある。

これらの生活時間を通覧してみると、1日をマージャン、ダンス、酒場というようなかなか極端な遊興組と、ハイキング、スポーツ、映画見物、動物園ゆき、庭づくり、畑づくり等専らレクレーションにすごしているものと、音楽観賞、家居読書、学習、研究会出席等と専ら自己教養のために休日をおてているものとの三つの類型がみられる。レクレーションを山の中心として、一つは極端な遊興組、一つは自己教養組という麓をつくつていっていることが見られる。このA、B、Cの生活類型を眺めて、労働する青少年の休日のあり方の内容を検討し指標を考えることは、大事な点であろうと思う。

3. 経 済 生 活

(1) 1ヶ月の実収入

A、Bの1ヶ月実収入は、第8表（千以下切すて）のとおりである。

第 8 表

A (三十才以下)	4,000.- ~ 5,000.-	26 %	5,000.- ~ 6,000.-	48 %
	6,000.- ~ 7,000.-	16 %	7,000.- ~ 8,000.-	10 %
B (三十才 ~ 五才)	4,000.- ~ 5,000.-	10 %	5,000.- ~ 6,000.-	26 %
	6,000.- ~ 7,000.-	19 %	7,000.- ~ 8,000.-	17.4 %
	8,000.- ~ 9,000.-	13.4 %	9,000.- ~ 10,000.-	6.7 %
	10,000.- ~ 11,000.-	3 %	11,000.- ~ 12,000.-	4 %
	13,000.- ~ 14,000.-	1 %		

(2) 自家家計への援助

(A)

1. 食費として、又は家計補助として自家に入金しているもの 87 %

(その金額は)

1,000 円 ~ 2,000 円 7 %。 2,000 円 ~ 3,000 円 45 %。

3,000 円 ~ 4,000 円 34 %。 4,000 円 ~ 5,000 円 14 %

□. 自家へ入金していないもの 13 %

(その居住別は)

過半は間借、または下宿者で、自家通勤者は1名のみである。

(B)

(1) 食費として、又は家計補助として自家に入金しているもの 81 %

1,000 以下 5.6 %。 1,000 円 ~ 2,000 円 21 %

2,000 円 ~ 3,000 円 24 %。 3,000 円 ~ 4,000 円 12.6 %。

4,000 円 ~ 5,000 円 28 %。 5,000 円 ~ 6,000 円 12 %。

6,000 円 ~ 7,000 円 3 %。 7,000 円 ~ 8,000 円 3 %。

8,000 円 ~ 9,000 円 1 %。

(□) 自家へ入金していないもの 19 %

(その住居別は)

間借の者 22 %。 知人、親戚の者 22 %。 寮にいる者 44 %。

下宿の者 12 %。 自宅通勤者 0。

(3) 主なる消費

(一) 書籍雑誌購入費

(A)

1. 「書籍雑誌購入費」を支出しているもの 71 %

(その1ヶ月当り金額は)

100円以下 8%。 100円～200円 45%。 200円～300円 25%。 300円～400円 14%。 400円～500円 8%。

ロ 書籍雑誌購入費を支出していないもの 29%

(B)

1. 「書籍、雑誌購入費」を支出しているもの 66%

(その1ヶ月当りの金額は)

100円以下 3%。 100円～200円 41%。 200円～300円 17%。 300円～400円 6%。 400円～500円 2%。 500円～600円 22%。 600円～700円 2%。 700円～800円 4%。 900円～1,000円 3%。

ロ 書籍雑誌購入費を支出していないもの 34%

(二) 学費、研究会、同好会、クラス、サークル おけいこごと費等の文化費は、

(A)

1. 支出しているもの 20%

(その月当り額は)

(150円, 380円, 300円, 500円, 750円各1等である。)

ロ 支出していないもの 80%

(B)

(1) 支出しているもの 15%

(その月額額は)

100円, 6500円, 250円, 370円, 400円, 450円, 80円, 1050円, 各1である。

(ロ) 支出していないもの 85%

(三) 一ヶ月の映画費

(A) (20才以下)

(1) 支出しているもの 97%

(その月額額は)

100円～35%。 200円～300円 35%。 300円～400円 3%。 400円～500円 24%。 700円～800円 3%。

(ロ) 映画費を支出していないもの 3%

(B)

(イ) 支出しているもの 85%

(その月額とは)

100円以下 2.4%。 100円～200円 41%。 200円～300円 26%。 300円～400円 7%。 400円～500円 18%。 500円～600円 1.6%。 700円～800円 4%。

(ロ) 支出していないもの 15%

(四) スポーツ費

(A)

(イ) 支出しているもの 42%

(その月額とは)

100円以下 12%。 100円～200円 74%。
500円 7%。 1,000円 7%。

(ロ) 支出していないもの 58%。

(B)

(イ) 支出しているもの 22%

(その月額とは)

100円以下 5%。 100円～200円 60%。
200円～300円 15%。 300円 5%。
800円 5%。 1,000円 10%。

(ロ) 支出していないもの 78%。

(五) 旅行積立金

(A)

1. 支出しているもの 23%。

(その月額とは)

100円以下 33%。 100円～200円 67%。

ロ. 支出していないもの 77%。

(B)

(イ) 支出しているもの 22%。

(その月額とは)

100円以下 6%。 100円～200円 78%。
200円～300円 12%。 500円 4%。

(ロ) 支出していないもの 78%。

(六) ダンス費

(A)

(1) 支出しているもの 10%.

(その月額とは)

(300円, 2,000円各1, 1,000円2, 等)

(2) 支出していないもの 90%.

(B)

(1) 支出しているもの 8%.

(その金額は)

(100円3, 300円, 500円, 600円, 800円, 1,000円各1, 等)

(2) 支出していないもの 20%.

(七) 交際費

(A)

(1) 支出しているもの 58%.

(その月額とは)

100円以下 5%, 100円～200円 45%.

500円 40%, 1,000円 10%.

(2) 支出していないもの 42%.

(B)

(1) 支出しているもの 51%.

(その月額とは)

100円～200円 14%, 200円～300円 10%.

300円～400円 10%, 400円～500円 44%.

600円～700円 2%, 700円～800円 4%.

1,000円 14%, 1,500円 2%.

(2) 支出していないもの 49%.

(八) 煙草費

(A)

(1) 支出しているもの 37%.

(その金額は)

300円 30%, 500円 23%.

600円 16%, 1,000円 23%.

1,200円 8%.

(ロ) 支出していないもの 63%。

(B)

(1) 支出しているもの 70%。

(その月額払は)

200円 ~ 300円 7%。 400円 3%。

500円 21%。 600円 9%。

700円 11%。 800円 9%。

1,000円 27%。 1,200円 4%。

1,500円 6%。 1,800円 3%。

(ロ) 支出していないもの 3%。

(九) 酒 代

(A)

支出しているもの (なし)

(B)

(1) 支出しているもの 32%

(その月額払は)

150円 6%。 200円 6%。 300円 22%。

400円 13%。 500円 13%。 600円 15%。

700円 10%。 1,000円 15%。

(十) その他の慰安娯楽費

(A)

(1) 支出しているもの 13%。

(その月額払は)

300円 40%。 350円 20%。 400円 40%。

(ロ) 支出していないもの 33%。

(その金額は)

100円 ~ 200円 38%。 200円 ~ 300円 16%。

400円 ~ 500円 29%。 500円 ~ 600円 7%。

1,000円 10%。

(ロ) 支出していないもの 67%。

(十一) 間食費

(A)

(1) 支出しているもの 47%

(その金額は)

100円～200円 27%, 200円～300円 22%,
 500円 33%, 1,000円 11%, 1,300円 7%,
 (ロ) 支出していないもの 53%.

(B)

(イ) 支出しているもの 46%.

(その月額はい)

100円～200円 24%, 200円～300円 26%,
 300円～400円 5%, 400円～500円 14%,
 500円～600円 5%, 700円 7%, 1,000円 14%,
 1,200円 2.5%, 2,000円 2.5%.

(ロ) 支出していないもの 44%.

以上、経済生活面を概観してみると、これら青少年層の大半が、食費として、または別個に家代補助として、自家経済のかなりの支柱になっていることがわかる。他方消費面からみれば、映画費、煙草費等は平均してかなり高額であり、学費、研究会、クラス、サークル費等は、Aにおいては支出しているものの20%、Bにおいて15%という低率である。読書費はかなり平均して支出されていて、Aが71%、Bが66%の支出をしているが、額において映画費、煙草代等をはるかに下回る。その他スポーツ費、旅行積立金等も低率である。

なお、貯蓄についてはつぎのように記載されている。

(十二) 貯 蓄

(A)

(イ) 貯蓄しているもの 29%.

(その金額はい)

500円 4, 1,000円 3, 100円 2, 1,500円, 2,000円
 各1, 等である。

(ロ) 貯蓄はしていない。 71%.

(B)

(イ) 貯蓄しているもの 27%

(その金額はい)

100円 4%, 200円 4%, 500円 48%,
 1,000円 32%, 1,300円～2,000円 12%.

(ロ) 貯蓄していない 73%

4. 健康について

(1) 既往症について

(A)

イ. ある 17%, ない 83%.

(主な既往症は)

黄疽 1, 気管支炎 1, 胃カタル 1, その他

(B)

イ. ある 29%, ない 71%.

(主な既往症は)

神聖痛 2, 気管支炎 2, 中耳炎 2, 肺浸潤 2, 盲腸炎 2,
黄疽, 痔, 胃腸 各 1 等。

(2) 現在の自分の健康についての自信

(A)

イ. 自信をもつ 87%, ロ. 自信をもたぬ 13%.

(自信をもたぬわけ)

体が弱い ~ 夜勤により体が夜調子になるので ~ 三直にて食事と睡眠が
不規則になるので等。

(B)

イ. 自信をもつ 78%, ロ. 自信をもたぬ 22%

(自信をもたぬわけ)

取場の空気がわるいのと時々ガスを吸うため ~ あまり丈夫でないから
~ 生活が不規則だから ~ 疲労し易いから ~ 人生は一寸先は闇 ~ 季節
の変わり目に筋肉節がいたむので ~ 人工気胸実施中だから ~ 肺浸潤をやつ
たから ~ 仕事が荒いので等。

(3) 作業とつかれ

(A)

イ. つかれない 21%, ロ. 多少つかれる 72%.

ハ. ひどくつかれる 7%.

(B)

イ. つかれない 30%, ロ. 多少つかれる 64%.

ハ. ひどくつかれる 6%.

(ひどくつかれるわけ)

現場に階後が多いので等。

(4) いつ、どこがつかれる。

(A)

イ、夜勤のとき、ひる近く等。

ロ、足、その他

(B)

イ、午任、ひる頃、夜勤のとき等。

ロ、足、腕と足、腕、肩がこる、肉節、目、体全体、各1等。

(5) 保健のために何をやっているか。

(A)

イ、何もやっていない 70%。 ロ、やっている 30%。

(やっているもの) 野球、卓球、その他のスポーツ

(B)

イ、何もやっていない 62%。 ロ、やっている 38%。

(やっているもの) 体操、野球、卓球、その他のスポーツ、なわとび、

うがい、お灸、留つくり、電気療法、散歩、節制をやること。

健康についての記述は以上のようである。自分の健康について自信をもたぬもの、若干の作業にひどく疲れるもの等、それやれその理由を上げているが、それらについての衛生管理面からの配慮がどの程度に行われているか。また保健のために各自がやっていること、何もやっていない者等への積極的検討等も取場における青少年の健康を護り向上させるうえに、軽視出来ない点である。

5. 取 業 に つ い て

(1) 現在の取業に満足しているや

(A)

(イ) いる 75%。 (ロ) いない 25%。

(その理由は)

自分の希望した取業ではないから、等。

(B)

(イ) いる 72%。 (ロ) いない 28%。

(その理由は)

道具が少ないのと、取場が狭くてすべてが合理的でない。(仕上エ) ~ 給料が安いから ~ 自分の生活に不安があるので ~ 三直制だから ~ 身に取がつかぬ ~ 人夫の仕事と同様だ ~ 若人の夢が描けぬ ~ 自分の技術を伸ばしえない。(現場事務員) ~ 興味がなから ~ 本当にこれが自分の仕事と思えぬから、等。

(2) 現在の仕事が自分に適しているや。

(A)

(イ) い る 79%。 (ロ) い ない 21%。

(その理由は)

自分の個性に合わない ～ 自分の勉強して来た道とちがう等。

(B)

(イ) い る 74%。 (ロ) い ない 26%。

(その理由は)

自分の体力には労働過重だ(2) ～ 三交替制のため ～ 技術的なところがないから ～ 生活に追われて入った仕事だから ～ 性格に合わない ～ 不器用だから等。

(3) 自分の技術に自信をもつや。

(A)

(イ) も つ 77%。 (ロ) も ため 23%。

(その理由は)

まだ勉強が足らぬ ～ もつと工学を勉強し技術的なものを身につければ駄目だ ～ 経験が浅いから等。

(B)

(イ) も つ 65%。 (ロ) も ため 35%。

(その理由は)

職場が新たに変わったから ～ 機械の諸機能を明確に熟知していないから(仕上工) ～ 手先不器用 ～ まだ熟練が不足 ～ 学力不足のため(2) ～ 現場経験が不足(6) ～ 才能がない ～ 自分の技術に自信がもてるようになれるは大したもの等。

(4) 自分の作業が楽しく出来るや。

(A)

(イ) できる 73%。 (ロ) できぬ 27%。

(その理由は)

希望がない ～ 更に学校へゆきたいという考えが頭にあるから ～ 団体活動であるのに個人勝手をする者が多いから等。

(B)

(イ) できる 81%。 (ロ) できない 19%。

(その理由は)

その時の状態による(2) ～ 興味のため ～ 生活不安定 ～ 興味がもてぬ

(2) ～ 仕事が幼稚だから等。

(5) 職場に不満があるや。

(A)

(イ) な い 82%。 (ロ) あ る 18%。

(B)

(イ) な い 63%。 (ロ) あ る 37%。

(その理由は)

自分の意見が入れられぬ ～ 上下の差別が多い ～ 災害の危険あり ～ お互いの自尊心がないから ～ 職場の封建思想(5) ～ 三文書で仕事の申送り が不充分である ～ 異質 ～ 職場の空気と衛生管理面 ～ 現場の改善に ～ 友愛の欠乏 ～ お互いの人格尊重がない ～ もつと職業教育をして欲しい等。

(6) 将来の志望は

(A) (記入者約2割)

現在の仕事をついける ～ 安定ある生活 ～ 進学希望 ～ 設計技師 ～ 法律家 ～ 工場主となる等。

(B) (記入者2割弱)

安定ある生活 ～ 昼間だけの仕事がしたい ～ 取長 ～ 機械の仕事をしてい ～ 平凡に暮せること ～ よい高い技術の修得 ～ 仲間同志の中に秩序と礼儀と教養の進むこと ～ 能率の機械化と会社としての専向教育の実施 ～ 自分の学んだ学問を職業に生かしたい ～ 研究部長 ～ 独立した商人になりたい(3) ～ 音楽で算を立てたい ～ 絵画の研究をしたい ～ 作家となる ～ 職場改善、作業改善をして自信のある作業が出来ようになりたい等。

以上の記述で現在の職業に満足出来ない — A25%、B28%。現在の職業は自分に適していない。A21%、B26%。自分の技術に自信をもたぬ A23%、B35%。作業が楽しく出来ないA27%、B17%。職場に不満のあるもの A18%、B37%等が見られる。すなわち全員の約2割乃至3割のものは、自分の労働生活に真面目であるだけに、精神的動搖や人生的懷疑をもちながら、自分の職場生活を送っているわけである。現在の職場において、作業管理と並行して、人間管理の仕事が — とくに青少年に対する — どの程度に進んでいるであろうか。そこで人間を生かすことが、作業管理の根本問題であるとある筈であるが。労働青少年の教育も、これらの生活の中の問題に説明を与えるものでなく、ゆめを前方にだけ描かせ、現

在の生活は単に足場とするだけの教育であるならば、意義の少ないものと言われぬはならない。

6. 夜学校について

(これはA, Bの夜学校通者の記入による。)

(1) 夜学校に入学した理由 (第9表)

第9表 夜学校 入学理由

教養を身につけたいため	20%
現在の仕事をもつと研究したいため	10%
基礎的学問を身につけたいため	30%
現在の仕事は嫌だから	10%
もつとひろい社会を知りたいため	30%

(2) 夜学校の勉強と現在の仕事との関連は (第10表)

第10表 夜学校の勉強と作業との関連

よく関連している	14%
多少関連している	43%
全然関連していない	43%

(3) 夜学校通学のための生活上の無理は (第11表)

第11表 夜学通学のための生活上の無理

ひどく疲れる	16%
食事が不規則になる	33%
よくぬむれぬ	16%
レクレーションの時間がない	25%
無理はない	10%

(4) 夜学校が自分の生活にどう役立っているか (第12表)

第12表 夜学校が自分の生活にどう役立っているか

知識、教養が高まる	37.5%
将来役立つとおもう	25%
人格が高まる	12.5%
技能が上達する	12.5%
希望がわく	12.5%

(5) 卒業後の志望は (第13表)

第13表 卒業後の志望

現在の取場でよい	3	3	%
転取したい	3	3	%
事務の仕事に移りたい	1	6	%
特になし	1	6	%

この調査対象においては、夜学校在学者が少いので、こゝで深入りはないが、労働青少年の生活と夜間学校をどう結び、どう調整するかはわれわれの重要な課題である。事業場がその従業青少年の育成の面から、夜間学校を積極的に利用する立場をとり、通学上の諸便宜を考慮することは第一であるが、もつと根本的には、夜間学校が労働青少年に門戸を解放するだけでなく、学校はこれら青少年の労働生活に即して、その学修内容を新しく組立てるべきである。(カリキュラムうえでも、単位のうえでも)。現状では現在の取業と何ら有機的関連のない学校に進んでいるものが大部分であり、(第10表等参照)、昼間の作業は単にアルバイトとしてやっているに過ぎず、労働生活と学修のうえに何んの相関性がない場合が多い。このために作業の面にも青少年自体の生活のうえにもマイナスが多く無理を重ねつつ学修をつづけている。(11表、12表参照)。労働青少年のための学校の解放は、もつと学修内容の再組立てと共に前進してほしいものである。そこに労働青少年の人間育成のひろい世界がひらける。そこに青少年が夜学通学するための取場側のマイナス面がプラスになり、通学する青少年たちの生活上の諸無理の除去される道がひらかれる。

フ 自分の生活をもつとどうしたいと思うや

(A)

- 経済的にだけ支配されないゆとりのある生活、知的生命の伴う生活を現在の中に見出したい。(ガス架現場員 19才)
- もつとゆとりのある生活を
- もつと楽しく束縛のない生活がしたい。(女子)
- もつと会社に近いところから通い、通勤の時間を勉強時間にふりむけたい。
- 規則的な正しい生活がしたい。
- 経済生活の工夫をして、もつと楽しい生活の出来る環境をつくる努力を

したい。等。

(B)。

- もつと安定した生活(2)へ余裕をもちたい、いまのまゝでは悲惨だへもつと余裕をもちたい(3)へ個人が共同体の根源だから、もつと個人が努力しなければ駄目だへ明るい生活を築きたいへ生活を物心両面豊かにしたいへ明るい生活をきづきたいへ収入を多くしたいへ職業の安定を充したいへ安定した家庭生活をつくりたいへ不規則な三直制生活でなく正常な生活をしたい(5)へ経済面の向上をへ無理のない生活をへ文化的に向上した生活をへ時間と金の余裕をもちたいへ読書時間を合理的に可能にしたいへ生活水準を高めたいへもう少し収入を多くして文化人らしき生活をしたいへ生き甲斐のある適当につきたいへ自分の生活をすべて職場の生活に結び付けたいへ特に希望なし(2)へ現在のまゝで満足だ等。

自分の生活をもつとどうかしたいか——、これらの記載された言葉は故く少さい。しかしすべてが切実で真剣だ。これらの声のむかうにこれらの生活がある。これらのねがいや希望が窺みられ空しいものとなつてゆくとき、希望やねがいは醜悪の生活と置きかわる。絶望や破壊への道がひらける。労働する生活の中での青少年らの内心の声や欲求に、もつと強い関心が払われ、広い面からの検討が行われ、自己育成と希望ある人生建設への意欲の逞しく振起する道が、労働する青少年層にひろく展られねばならない。

第三部 生活の中の教養

ノ 読書について

(1) 生活と読書

(A)

毎日読む 25%、 毎日読めぬ 67%、 殆どよまぬ 8%

(B)

毎日よむ 37%、 毎日読めぬ 53%、 殆どよまぬ 10%

(2) いつ、どこでよむや

(A)

自宅よむ 50%、 自宅と通勤車内、昼休み時間によむ 50%

(B)

自宅よむ 64%、 自宅と通勤車内昼休みによむ 30%、 ひまさえあればどこでもよむ 6%

(3) 読書はどうして

(A)

外部の図書館を利用して 5%、 会社図書館を利用して 30%

自分で購入して 40%、 友人から借りて 25%

(B)

外部の図書館を利用して 2%、 会社の図書館を利用して 48%

自分で購入して 38%、 友人から借りて 14%

(4) どんな本をよんでいるか。

表十四 表 読書 読んでいる本

	A (二十才以下)	B (20才-25才)
外国文学	36%	37%
日本文学	23%	30%
大衆文学	10%	7%
詩集	1.5%	1.5%
戦争記録文学	6.5%	7%
哲学思想	6.5%	3.5%
随筆	4%	2%
教育心理	3%	3%

科学技術	6.5%	3%
厂史、伝記	1.5%	1.5%
経済、社会	0%	0%
音楽、美術	1.5%	1%
スポーツ書	0%	3.5%

読書の分類割合は右十四表のとおりであり、それらの主な書名を上げてみると、次のようになる。

(A) ウオウアリー夫人[○] 復活[○] し、ミゼラブル 若きウエルテルの悲しみ[○] 廿五時 赤と黒 征服者 レベツカ ニ郡物語 名歌劇物語 マノンレスコオ[○] 大地 ナナ 狭き門 ハムレット 月と大ペンス 捕人日記 ツルゲネーフ散文詩 — 吾輩は猫である[○] 歌石全集 旅痕記 翌年(志賀) 道標 美しき青春[○] その妹[○] 坊ちゃん[○] 三四郎 天の夕顔 人生劇場 石中先生行状記 斜陽 — 木蘭記 宮本武蔵[○] 佐々木小次郎 佐々木邦全集 — 典型 — 潜行三千里 ガタルガナル — 学生と哲学 雲と認識の出来 — この子を残して 滅びぬものを 人生の表現 — 少年期 — フランス革命史 — (○印のあるものは教人に読まれているもの)

(読まれている主な雑誌) リーダイ 盛雪時代 学苑 世界文芸春秋 小説新潮 電気計算 新電気界

(E) 壁(サルトル) 美しき惑ひの年(カロツサ) 戦争と平和(トルストイ) アンナカレニナ 4ボー家の人々 トリアンクレイの画像 田園交響楽 穿き門 泥にまみれて 若き娘たちの手記 春の嵐[○] 嵐と共に去りぬ 最期の章 背徳者 失われた地平線[○] 大地 神々は渴く モンテクリストフ イギリス神話 罪と罰 アルプスの山の娘 絶対の要求 ジャンクリストフ[○] 容肉の百合(バルザック) 二十五時 カンタベリ物語 静かなるドン 処女地 郷土(パールバック) [○]死よりも強し(モウパッサン) レベツカ 金ペイ梅 スイゴ低 三国史 西遊記 — 庄世家の誕生日 一房のぶどう 小僧の神枕 多情佛心 望みなぎに非ず[○] 和解 女の一生(山本有三) 食しう人々 三四郎 赤と緑 組雪 現代日本文学選集 若い人[○] 細雪 雪夫人検図[○] 帰郷 あるサ 滝口入道 タデ食う虫 波 旅愁 坑夫 野分

草枕、 燈台 現代文学大系 『武蔵野夫人』 石中先生行状記 南
 の風 人生劇場 —— ハズ伝 —— サイパン島 タラワ島 ガ
 アルカナル 十五対一 酒行三千里 イムパール ノモンハン
 —— スタンダール恋愛論 生きる道 日本の若いもの 戦争と平
 和(リーフマン) 處の宴 —— 北京好日 映画読本 本の話
 がりりひようたん —— 青年心理学 少年説 —— T.V.A 寺田
 実彦隨筆集 —— モーツアルト(小林秀雄) (○印は数人によつて読
 まれているもの)

(主なる雑誌は) 化学工業 美術手帖 文芸評論 改造 文
 芸春秋 世界 平凡 野球界 山と谿谷

けうの若い青年層の読書量は著しく増大しているとおもう。それは不安
 動搖時代の特殊現象の一つであるかも知れない。青年層の精神の激変がこ
 の読書生活に強く現はれているともいえる。映画、スポーツ、読書はけう
 の青年生活の大きな部分になつてゐる。しかしこの読書も一口に言えば
 乱読である。道なき読書である。筋の立つた、体系的な自己完成のための
 読書ではない。自己の魂、良心、深い内面の要求からの読書ではない。道
 なき読書である。読書の疾風怒濤時代である。(科学技術に關するものが
 多く、経済、社会思想等についての読書の上げられていないのも注目され
 る。しかしこの読書傾向には取場別によつて差異がある。以下のオニ輯、
 オニ輯における。読書の項々と参照されたい。

しかしどのようなものであれ、読書が盛んになり、青年生活の中の不可
 欠のものになつてきたことは慶賀すべき事である。漸次読書生活への反省
 が行はれ、批判が行はれ、正しい筋道と指標が与えられ、生活読書とも言
 はるべき風潮が台頭してくるとき、この読書気風は、民族資質転換向上の
 大きな明け方ともなるであらう。

映画館、劇場、寄席等の利用状況

最近の二ヶ月間の映画館、劇場、寄席等の利用状況については次のよ
 うな結果が見られる。

(1) 映画館について

(A)

映画を見ているもの 利用しているもの 100% 映画をみて居いも
 の 0

(B)

映画を見ているもの 95.8% 映画をみてないもの 4.2%

(2) 劇場について

(A)

演劇をみているもの 5.1% 演劇をみていないもの 94.9%

(みたもの) 三越劇場。「その妹」二名

(B)

演劇をみているもの 10% 演劇をみていないもの 90%

(みたもの) 新宿地球座。「自由学校」二名、三越劇場。「母の園」
「ワーニヤ叔父」「その妹」四名。浅草国際劇場三名。歌舞伎座。「カ
ルメン」 帝劇「ファスト」、新橋演舞場「トスカ」、有楽座「ペトルシ
ユカ」。公会堂「白鳥の湖」各一。

(3) 寄席について

(A)

寄席にいったもの 2.7% “ ゆかないもの 97.3%

(いきたいもの) 上野、塚本

(B)

寄席に行ったもの 0 “ ゆかないもの 100%

映画館利用はA、B層とも殆ど100%で、全然利用してない人は極く少数である。回数としては明確なものが出せなかつたが、二、三ヶ月の間に10回以上、30回ほどというファンもかなりみえ、平均月に三、四回は利用していると思はれる。洋画、日本画の割合は、A、B共に洋画64%、日本画36%の割合である。もっとも多くみられている映画の主なものを上げると次のようである。

(A)

(洋画)

黒水仙、無防備都市、魔天楼、思い出の瞳、死斗の銀山、西部の王者、西部の男、パルムの僧院、戦場、白雪姫、ヨーク軍曹、ケンタッキードッグ、征服されざる人々、虹をはく男、幌馬車等

(日本画) 佐々木小次郎、帰郷、風にそよぐ葦、暑魔等

(B)

(洋画) パルムの僧院、黒水仙、無防備都市、わが谷は緑なりき、鹿ヶ丘、マルセイユの一夜、夜も昼も、ヨーク軍曹、エーモレスク、ハムレット、戦みがさ、自転車泥棒、頭上の敵機、田園交響楽、シベリヤ物語、ロ

ピンフット、赤い靴、格子なき牢獄、壁の中の散歩等

(日本画) 帰郷、嵐にそよぐ葦 佐々木小次郎、破戒、菩薩、母日夜、
愛と憎しみの彼方へ等。

映画が圧倒的に独尊のものになつてゐるに反し、劇場はまだ極めて少数
の者によつて利用されている。映画においても、読者と同じく単なる娯楽
鑑賞だけでなく批判と観賞の道と立つて来なければならなうし、
劇場については組合の文化サークルによる団体観賞、批評会等の新しい動
きが今右に期待される。

3 音楽会 美術展覧会等の参会状況

(1) 音楽会について

(A)

参会しているもの 18% 参会していないもの 82%

(聞いたもの) 日響定期演奏(一) コロンビヤ音楽祭(一) よみうり
ホールレコードコンサート(一) 空襲(一) ——氏作曲二十週年記
念音楽会(一) グランドコンサート(一) ポピュラーコンサート(一)
(三) 名曲の夕(三) C.I.E図書館レコードコンサート(一)

(B)

参会しているもの 10% 参会していないもの 90%

(聞いたもの) 日響演奏会毎会(二) 東京フィルハーモニー演奏会(一)
(二) 読売ホールレコードコンサート(一) ポピュラーコンサート(一)
(一) C.I.E図書館レコードコンサート(一) 組合主催レコードコン
サート(一) 等。

(2) 美術展覧会について

(A)

美術展へ行つたもの 23% 美術展へ行かないもの 77%

(見たもの) 読売アンデパンタン展(三) マチス展(四) ピカソ展
(一) 二科展(一) 水彩画展(一)

(B)

美術展へ行つたもの 10% 美術展へ行かないもの 90%

(見たもの) 読売アンデパンタン展(五) フランス美術展(二) マ
チス展(二) サロンドメイ(一)、藤島武二展(一)

一般の音楽会、美術展等の浸透度は、高率ではないが、努力する青少年層とこのような関連をもっている美術展や音楽会の企画者は（それが純商業企画でなく、公の機関で企画されている場合）、これらの点について、どれだけの注意と関心をもっているであらうか。努力文化というものは、別途にのみ育成されねばならぬものであらうか。

ㄥ 社会教育施設の利用状況

最近二三月間の利用状況はつぎのとおりである。

(1) 公共図書館

(A) 利用したもの 20% 利用しないもの 80%

(利用したところ) 上野図書館一面(三)。全四面(一)。全五面(二)。

(B)

利用したもの 15% 利用しないもの 85%

(利用したところ) 上野図書館一面(二)。全四面(一)。C.I.E 図書館二面(一)。二面(二)。

(2) 博物館

(A)

利用したもの 15% 利用しないもの 85%

(利用したところ) 上野国立博物館、交通博物館等

(B)

利用したもの 6% 利用しないもの 94%

(利用したところ) 上野国立博物館、科学博物館等

(3) 動物園、植物園等

(A)

利用したもの 15% 利用しないもの 85%

(利用したところ) 上野動物園、野毛山動物園等(一面四、五回一、二面一等)

(B)

利用したもの 5% 利用しないもの 95%

(利用したところ) 上野動物園、野毛山動物園等

教育的な社会教育施設の主なものの、努力する青少年層の利用状況は右のごとくで、極めて低率である。これらをもつてこの人々に近づけるためには、施設のあり方にも、利用のさせ方にも、多くの積極的考慮の余地が

あるとおもう。移動図書館活動等は漸次動きつゝあるが、科学博物館等にも、取組
どの連携に尚多くの熱情と方策がたてらるべきでなかろうか。

5. 講演会

(A) 府局批判講演会をきいた者 ニ

(B) 会社にて、労働と社会問題の講演会、資本主義社会についての講演を
きいたもの各一

6. ハイキング、旅行

(A)

行ったもの 20% 行かないもの 80%

(行きさき) 三浦半島廻り三 伊東、多摩川、熱海、鎌倉江、皇谷一峰

(B)

行ったもの 28% 行かなかつたもの 72%

(行った先き) 伊東旅行(五) 赤倉スキー(二) 大島(二)、鎌倉
江、島、奥多摩、志賀高原、土倉、熱海、伊勢余良、日光、城ヶ島、箱
根、みたけ等各一。

7. 宗教行事

(A)

(参加せるもの) なし

(B)

(参加せるもの) 復活祭、本門徑王宗教会、報恩会参 等各一。

8. クラブ、同好会等の集り

(A)

カメラクラブ参加一、その他なし

(B)

カメラクラブ一、山岳会二、演劇研究会一、読書会一、将棋の会一、
書道研究会二、

9. スポーツについて

1) やつてゐるもの、やうないもの

(A)

やつてゐる 65% やつてゐない 35%

(B)

、 やつてゐる 48%、 やつてゐない 52%

(2) いまやつてゐるもの

(A)

野球 54% 卓球 34% 排球 8% テニス 4%

(B)

野球 50% 卓球 21% 登山 7% スケート 7% 排球 5% その他(テニス、バドミントン、鉄棒) 10%

(3) やりたいもの

(A)

野球 7 テニス 3 卓球 2 スケート 2 バスケット、マラソン、水球、ラグビー スキー各一 等。

(B)

野球 14 テニス 7 卓球 6 スケート 5 スキー 4 排球 2 登山 2 柔道、乗馬、水泳、ソリ 等。

(4) やりたいがでないもの

(A)

フェシング、2、柔道、矛木軟体操、ラグビー、サッカー、スキー、スケート、テニス各一 等。

(B)

野球 4 ピンポン 3、スキー、柔道、水球、陸上競技、健康体操、射的各一 等。

ここの事業場はスポーツはかなり普及している。それでも尚、野球やピンポン、テニス、排球、陸上競技等の場所や設備の関係で、体操、健康体操、柔軟体操 等が指導者の関係で「やりたいがでない」の中へ入つてゐる。「やりたいもの」と、「やりたいが出来ないもの」とは、はっきり区別がつかなくつたようで、「やりたいもの」の大部分は、やりたいが出来ないものの中に入るようだ。

10 ラジオについて

(A)

毎日さく 77% 時々さく 20% 殆どさかない 3%

(きかないわけ) ラジオを持たぬ、等。

(主にさく番組は)

(その順位) 1. 音楽放送 2. ニュース解説 3. 娯楽番組 4. ニュース 5. スポーツ放送でそれにつぐものは放送劇、今週の明星等である。

(B)

毎日さく 66%, 時々さく 29%, 殆どさかない 5%

(さかないわけ) 読書で出来ないから。ラジオ故障、ラジオがない等。

(一番よくさく番組は)

(その順位) 1. ニュース 2. 音楽放送と娯楽番組、3. ニュース解説 4. 放送劇 5. スポーツ放送等これについては、私たちの言葉、話の泉、歌の明星等である。

1.1 新聞について

(A)

毎日よむ 37%, 毎日二種類以上よむ 46%, 毎日三種類以上よむ 17%, 殆どよまぬ 0

(一番興味をもつ面は)

社会面 35% スポーツ記事 33% 文化面 13% 連載小説 7% 政治面 6% 経済面 2%

(B)

毎日よむ 36%, 毎日二種類以上よむ 43%, 毎日三種類以上よむ 19%, 殆どよまぬ 2%

(よまぬわけは) どこまで事実かわからぬから、一 ほか

(一番興味をもつ面は)

社会面 31% 文化面 20% 政治面 16% スポーツ記事 15% 連載小説 10% 経済面 8%

1.2 組合機関誌について

(A)

購から隔まてよむ 22%, ざつと目を通す 78%, 殆どよまぬ 0

(これについての意見) われらの事をもちと多くのせよ、組合運動の報告を多くせよ、労働教育をせよ、紙面を多くしてもちと読者に読めるようにせよ、文芸作品をものせよ等。

(B)

購から隔まてよむ 34%, ざつと眼を通す 63%, 殆どよまぬ 3%

(これについての意見)

もつと組合員に直接関係ある記事を多くせよへ 親しみ易い興味のある
記事をへ 各政党の組織内容を知らせて欲しいへ 等。

13 所属団体

労組、事業場関係以外に、外部の団体活動に関係しているものは

(A) なし

(B) 合成化学会 1、 田舎会 1、 山岳会 1

1 自己の属する地域外の一般社会的な団体になっているものは僅少である。

14 趣味、嗜好

(A)

スポーツ 30% 読書 16% 映画 14% 音楽 12%

ラジオ製作 3% 旅行 3% 釣 3% ダンス 3% 演劇
3% その他 13%

その他には、カメラ、絵画、ハイキング、囲碁、将棋、等が入る。

嗜好は、甘いものが大部分で、タバコ、酒をあげているものも若干ある。

(B)

読書 20% 映画 18% スポーツ 14% 音楽 13%

将棋 5% 釣 4% 絵画 4% 旅行 4% 登山 3%

ダンス 3% 書道 2% 演劇 2% カメラ 2% マージ
ヤン 2% その他 4%

その他には、切手蒐集、ラジオ組立、競輪、競馬等が入る。

嗜好は、甘いもの、酒、タバコが殆ど同数、その他は名菓、中華料理等が
ある。

15 自分の研究したいこと

自分の研究したいこととして上げているものは、

(A)

語学へ 英会話へ 血霊考古学へ 社会問題へ 化学肥料についてへ エ
学へ 郷土史等。

(B)

文学(三)へ カメラ(二)へ 心理学(二)へ 音楽の編曲法へ シン
ホニーへ 音楽へ 絵画へ フランス文学へ 硫酸製造についてへ 世界

の経済政策へ作業用工具についてへ数学(推理統計学、推計学)等。

知的生命の伴う労働生活がしたい。「自分の生活をもつとどうしたいか」—— A —— 前掲)。これは労働する青少年のすべての生活の底に流れている欲求の泉だ。労働生活の慣習の中で多くは咽らされてゆく貴重な生命の泉だ。労働生活が、労働の場が、知的生命を伴う生き物のものに進化する日が、彼等の生活に若々しい希望をもたらし、彼等の生活の生きる日だ。「自分の研究したいもの」についての記入例は少いが、われわれはかれらの生活の流れの中の、この探求意欲の芽を軽視したくない。

ノ6 生き甲斐を感じた日

(A)

信じあう友よりたよりの未来日々という記入一つあり、その他は「失望はあれども生き甲斐を感じた日なし」、「一日一日が弱肉強食の戦なり、戦いつかれて、生き甲斐を感じる時なし」等、大分悲観的である。

(B)

Bクラスのこの記入は

「思う存分働いたとき、遊んだとき」～「寒冷期を破つて早咲きの梅花をみたとき」～「会社の創立記念日に、特殊工具の考案で表彰されたとき」～「積雪ヨフセンチの朝、徒歩で出勤会社に一番乗したとき」～「新設工場の担当を命ぜられたとき」～「会社で尊敬している人とゆつくり話の出来たとき」～「日記を書いているとき」等がある。

ノ7 その他の質問から

イ 私の愛読書

(A)

坊ちゃん～秋石の作品～風と共に去りぬ～詩集典型～食しき人々の群～道標～映画についての本～リーダイ～学死～留学時代～社会人～野球雑誌等。

(B)

林芙美子集～秋石の作品～ジイドのもの～トルストイの復活～ヘルマンヘッセのデミアン、春の嵐～スイス日記～フランス文学～石川達三集～大地～シマンクリストフ～絶河の探求～ワースワース詩集～風と共に去りぬ～徒然草～ゲーテ、ハイネの詩集～リーダ

イ へ 文芸春秋 へ 人間 へ 科学雑誌

等が上げられている。

ロ 私の宗教

(A) キリスト教 一 へ 浄土宗 一 へ 日蓮宗 へ 佛教 一

(B) キリスト教 四 へ カトリック 一 へ 日蓮宗 四 へ 浄土宗 三 へ
本門経王宗 へ 真言宗 へ 神道 二 へ 佛教 二

青年時代の宗教的傾向を推知しようような記述は殆どない。宗教なしと断定しているものは多い。

ハ 尊敬する人物

(A)

渡辺 へ 福沢諭吉 へ 川上哲三 へ 片山哲 へ 荒畑寒村 へ ベートウベン
へ リンカーン へ パスツール へ アイザックニュートン へ 野口英世 へ
宮本百合子 へ 三好十郎 へ 高村光太郎 へ 中学三年の時の先生

(B)

父 へ 会社では平凡と思はれているある人 へ 二宮尊徳 へ 中谷宇吉郎 へ
ベートウベン へ 大山郁夫 へ 平凡な人 へ 湯川秀樹 へ 尾崎行雄 へ 母
校教官のある人 へ キリスト へ ペリクレス へ 姉

記入例は少い外、父や師や取場で黙々として働いている人に、尊敬する人を見出している傾向は深い。

ニ 私の理想

大実業家になる へ 毎日の生活を充実しておく へ 政治家となる へ 平凡に生きる へ 明るい取場をつくる へ リンカーンの如き人物になること へ
機械技術者として取場になくてもはなうぬ人になること へ ヒューマニズム

(B)

充実した人生をおくりたい へ 心の平安 へ 修身育家 へ 仕事と生活との一致 へ
趣味と職業の統一 へ 戦争のない世界のくること へ ヒューマニズム的
社会の生れること へ 希望ある社会をつくること へ 円熟な人格をつくること へ
学校で学んだ真理と取場の真理との関連性を見出すこと へ 平凡な人として
生きること へ 安定ある生活 へ 道徳的社会をつくること へ 戦争のない社会を へ
若いものの考えと現実と余りにちがうがわれわれの良心を生かしたい ——。

「充実した生活を」「取場になくてもはなうぬ人に」「仕事と生活との一致を」「趣味と職業との統一を」「学校で学んだ真理と取場の真

理の結びつきを」「若いものの良心を生かしたい」

——これらの言葉は少く低いが何んと瑞々しい若さをもつことだろう。新しい産業社会を創造する力の鉅脈はこれら青少年の生活の底にある。それを掘り出し、現実の中で鍛え育てるか否かのもんだいだ。

つぎの「私の信念」の項の中の言葉も、決して浮ついたものでも浅大なものでもなく、多くは労働生活の中で青少年が体得している堅実な人生観の要諦を示している。

ホ 私の信念

(A)

愛と労働と信仰 ～ 社会正義のためにつくす ～ 真実に生きる ～ 社会の土台石となる ～ 努力 ～ 努力と責任感 ——。

(B)

平和を愛する ～ 人間完成への道を歩む ～ 何事をも人のために ～ キリスト教の教義 ～ 明るい気持で世間を渡る ～ 良き労働者となる ～ 常に自己の環境の中によいこみを見出す ～ 正しさを貫く ～ 社会人として向上したり ～ 人に迷惑をかけぬこと ～ 正直で通したり一生 ～ 真実の強さ ～ 人格尊重 ～ わが道をゆく ～ 明朗であること ～ 自分は立派な青年である——。

ヘ 支持する政党と政治家

(A)

自由党 一 社会党 三

吉田茂 一 浅沼祐次郎 二 鈴木茂三郎 一

(B)

自由党 八 社会党 十八

既成政党にはなし 一 両心なし

ト 組合運動についての意見

(A)

もつと労働教育を盛にしてみたい ～ 役員が荷重に恥ぢぬ仕事をしてくれ ——。

(B)

民主的労組の確立 ～ 幹部のみの独断場では困る ～ 政治運動とハッキリ一線を画せ(一) ～ 現状でよい ～ 組合員にもつと積極性をもたすように。教宣部が活動せよ ～ 御用組合不賛成 ～ 人争権を獲得してみたい ～ 止めてくれ ～ いまの低調を嘆く ～ 組合費を守くせよ(三) ～ 幹部策

が実行出来ないのは、その案が一般に徹底しないからだ。～ 社員、工員の差別を撤廃せよ。～ 組合運動に熱心な者が多いのはよくない。～ 労使協調で生産実績を上げ、組合員の生活水準を高めるようにしたい。～ もつと強く力いてもらいたい。～ 組合意識の高揚と労働条件の改善をのぞむ。～ 御用組合なら組合費を下げよ。～ 生活向上のために断固戦える組合にせよ。～ 組合員が日常何を考え何を願っているのかをもつとよく知ってもらいたい。～ 組合役員のための組合の風あり。～

4 青年婦人運動についての希望

(A)

もつと文化運動を盛にすることをのぞむ。～ 悩める友を救うような力強い運動をのぞむ。～ 単なる文化運動ではなく組合運動の推進体になるように。～ いままに何をやっているのかわからぬ。――。

(B)

青年の自主性を高揚した文化運動をのぞむ。～ 自分たちの教養を高める力強い文化運動をのぞむ。～ 文化サークルの基礎を蓄実に進展させたい。～ 従くまで文化運動として職場の明朗性を推進してゆくこと。～ 楽しい集場をつくる運動を起せ。～ 勿く青年婦人の現実的な面をもつとよく研究して夢のような文化追求を止めよ。～ 宗教活動を加味せよ。―― 等。

組合運動も、青年婦人運動も、まだ真に自分たちの生活の中のものとなつて居らず、客観的であつたり批判的であつたりして、真に自分たちのものとしての切実な意風の記載は少いようだ。

勞 働 青 少 年 の 生 活

第 2 輯

(本輯は東京都足立区スタンダード高等学校(定時制)生徒を対象とする調査の統計である。本対象の特色は全員が定時制高校の在学者であることで、年令的には第一輯Aクラス(二十才以下)に相当するものが大部分であるが、前輯の場合はAクラスのものも大部分は三直勤務であり、夜学校在学者は僅少であつた。そのようにとくに教育的措置の講ぜられていない労働生活をする青少年の生活と、全員定時制高校の在学者との生活面の相異を、前輯に對比しつゝ、ここでは注意してみたいとおもう。調査の時期は昭和二十六年五月末で、全生徒八四名(男子一、二、三年在学者)に対しに行ひ、調査用紙回収は五四名(六四%)であつた。]

第一部 学習と製靴労働

イ 年令および取種

本輯調査対象五十四名の学年別(定時制高校)、年令別はつぎのとおりである。

一 年	15人(15才12人、16才3人)
二 年	24人(16才9人、17才6人、 18才5人、19才2人、 20才2人、21才各1人)
三 年	15人(17才3人、18才4人、 19才2人、20才3人、 21才1人、22才2人)

(本高校は発足三年目のため、四年在学者はまだない)

これらの青少年の取種は

底革型入工、中底溝切工、釣込工、甲裁工、製甲工、底裁断工、甲裁断工、芯革工、甲抄工、梓ハリ工、製甲仕上工、踵削工、仕上検査工等である。

(桜橋製靴は三六〇余工程に分れている)

エ 住居と通勤状況

第一表 住居区分

自宅通勤者	83%
寮居住者	13%
向 借	4%

第二表 通勤通学距離

往復一時間以内	63%
一時間～一時間半	11%
一時間半～二時間	18%
二時間～三時間	8%

住居区分および通勤距離はヤノ表およびヤ2表のとおりである。

このスタンダード高等学校は、一分工場を本社工場と分離して、独立した学校工場として経営している。本社からあらゆる靴の製作の基本による大衆靴の機械生産を委託され、受託、資材の充當、製品の販売等は本社が担当し、学校工場は生産と教育のみに専念出来る仕組みになっている。定時制高等学校として完足（従来の本社附属各種学校としての製靴学校を改変）ヤノ年、ヤ2年の間は工場、学校の拡充、生徒の技能未熟等のため相当の赤字をみたが、ヤ3年目の本年（26年）からは、指導職員、生徒の生産のみによつて経営も出来る域に達している。今后はその教育内容、生産技術等がどのように向上前進するかの期待がかけられ、学校工場としての一つのモデル取場である。以下、項を違つてここの青少年の生活を見てゆきたい。

上掲ヤノ、ヤ2表のごとく、寮、同僚の居住者はごく少数で、大部分は自宅通勤者であるが、その通勤距離は工場周辺30分以内が大部分で、工場と地域社会との密着も密接である。（新入学者は、同区内学校よりの推せん卒業生を逆考採用することを本則としている。

3. 在 学 状 況

全員がスタンダード定時制高校に在学する。

4. 研究会、講習会、通信教育利用

英会語塾、珠算塾等に2、3の加入者のあるほか、学校外に研究会、講習会の参加、通信教育の利用者等はない。

5. 平日の生活時間

4. 日課と教育課程

学校および工場の日課はつぎのとおりである。

第 三 表 日 課

時 間	課 目	時 間	課 目
午 前 7. 30 7. 45	体 操	7. 50 12. 00	実 習 作 業
5 分	休 憩	1 時 間	休 憩
7. 50 8. 40	学 課	午 后 1. 00 3. 00	実 習 作 業
10 分	休 憩	15 分	休 憩
8. 50 2. 40	学 課	3. 15 4. 25	学 課
10 分	休 憩	4 30	退 出

入門時間は1年を通じて同じ、冬期において午後の学課時間が実習時間に繰められること、夏期に日課終了后1時間程度の実習作業の残業を課せられることがある。

尚この工場学校での教育課程はつぎのとおりである。

教 科	学 年	1	2	3	4	計
国	語	3 単位	2 "	3 "	1 "	9 "
社	会	3 "	2 "	3 "	2 "	10 "
数	学	3	2 "			5
物	理	3	2			5
化	学		1	2		3
電	気		1	2		3
機	械			1	2	3
製	図			1	2	3
製	靴 法	3	3	3	3	12
材	料 学			2	2	4
工	業 経 営				3	3
英	語	2	2			4
音	楽	2	2			4
芸	能	3	2			5
体	育 衛 生	3	2	3	2	10
合	計	26	21	22	19	88

(1単位は35時間)

ロ、下校より夕食まで

ハ、夕食より就寝まで

第5表 下校より夕食までの生活時間

娯 楽	28%	ス ポ ー ツ	22%
音楽の練習	7%	学校の勉強	43%

第6表 夕食より就寝までの生活時間

娯 楽	10%	家事手伝	13%
読 書	27%	学校の勉強	13%
そばん塾	7%	英会話塾	7%
柔 道	7%	入 浴	10%
ピアノ練習	3%	休 養	3%

「日課終了下校より夕食まで」「夕食より就寝まで」の生活時間ば、オ大表、表、オ大表のとおりである。

授業時間以外の勉強時間にあて、いるものは、日課終了后より帰宅前の間、がもつとも多い。労働をし勉強をして帰宅して夕食をとれば、勉強にうち込む余力は殆どないのが実状であるう。予習復習時間のないことが定時制高校において切きつ、学ぶ青年たちの、もつとも大きい悩みの一つとされている。が、学校、取場が居住地に近く、学校に日課后自由に使える自習室、図書室等の設備があれば、このもんだいもかなり緩和されるであらう。

夕食后も、英語塾へゆくもの、珠算塾へゆくもの、ピアノの練習をするもの等もみられる。

6. 休日 の 生 活 時 間

休日の生活時間の割合はつぎのように見られる。(オ七表)

オ七表 休日 の 生 活 時 間

家事手伝	6 %	洗 濯	3 %
野球試合	10 %	バレーピンポン	10 %
野球応援	3 %	娯 楽	7 %
宿題勉強	3 %	読 書	9 %
ひ る お	5 %	入 浴	3 %
ラジオをきく	9 %	映 画	16 %
同窓会出席	2 %	将 棋	2 %
学校へゆく	3 %	そ の 他	9 %

その他は、兄の仕事見学、釣道具作成、習字、カメラ、農事手伝、

珠算練習、ピアノ練習、身の廻りのものゝ手入れ、上野散歩等

休日の生活においても、野球の試合、応援、その他のスポーツ、学校へゆく等、「学校を中心とした生活」のすごし方が多く、休日に「街に散策してゆく生活」面は少い。

映画へ行くものゝ数も、次のようで、前輯の場合より低い。

その休日に映画へ行ったもの 31 %

ゆかなかつたもの 69 %

ズ 経 済 生 活

(1) 1ヶ月の実収入

表 8 表 一ヶ月の実収入

1,000～2,000,-	23%	2,000～3,000,-	17%
3,000～4,000,-	32%	4,000～5,000,-	17%
5,000～6,000,-	11%		

実習としての作業時間は一日平均四時間程度である。これらの青少年の、経済収入の比較的低いのは止むをえないが、教育内容の充実と、将来への道が正しくあるとき、かれらはこれを克服して、よき生活を見出すだらう。かれらは準従業員であり、準組合員であり、高等学校生徒である。そこに実業上のいゝな問題もあるわけであるが、現在の経済組織の中でも一企業体が、一分工場を学校工場として切離し、それ独自の経営を許すならば、何の援助をうけず、生産の場であり、教育の場であり、生活の場である学校工場、青年工場は実現しうるのではなからうか、ニこの生徒たち、指導取員たちは、その実践の道を進んでいるわけである。

2. 家 計 補 助

無記入者八名を除き46名中43名(94%)は、食費または家計補助として、自宅へ入金している。その月額は

500円以下 12%, 500円～1,000円 7%, 1,000円～2,000円 25%, 2,000円～3,000円 46%, 3,000円～4,000円 10%

幼き学び、かつその収入の78割までを食費または家計補助として、自家へ入金しているのであるが、これらの青少年たちが、みな困難な家庭生活の中から、技術修得と学業へ志している青少年たちであることがわかる。かれらの学業への意気、強く敬しいものであることがわかる。

3. 学 費

ノート、教科書代等の1ヶ月支出はつぎの通りである。(月謝は徴収せず)

100円以下 15% 100円～200円 65% 200円～300円 10% 300円以上 10%

4. 交 通 費

交通費を支出しているものは約半数で、半額は会社が補助している。

100円 36% 100円～200円 21% 200円～300円 28% 300円～400円 15%

(5) 図書雑誌購入費

図書雑誌購入費を支出しているものは46%で、その1ヶ月支出額はつぎのようである。

100円～200円 71%, 300円 10%, 400円 10%
500円 50% 800円 5%

(6) クラブ・サークル費

支出しているものは33%で、学月額に全部100円以下で、50円、40円、20円等が多い。

(7) 被服費

支出しているもの 43%、月額は

100円～500円 84% 500円～1,000円 8% ,
1,000円～1,500円 8%

(8) 映画費

支出しているもの 82% その月額は

100円以下 21%, 100円～200円 54% 200円～
300円 19% 400円 3% 500円 3%

であり、極端な映画ファンもここにはみられない。

(9) 旅行積立金

支出しているもの 75%

50円 45%, 100円 33%, 150円～200円 15%,
200円～300円 7%

(10) 食費

支出しているもの 70%でその月額は

100円以下 73%, 200円 60%, 300円 9%,
600円 3%, 800円 3%,

(11) スポーツ費

支出しているもの 50%、その月額は

50円以下 52%, 50円～100円 20%, 100円～200円

10%, 200円, 400円, 500円, 各6%

(12) 調 整 代

支出しているもの70%で、その月額

50円以下 41%, 50円～100円 34%, 100円～200円
20%, 200円～300円 15%

(13) 交 際 費

支出しているもの27%で、その月額

100円～200円 30%, 200円～300円 40%, 500円
20%, 1,000円 10%。

(14) その他の慰安娯楽費(釣にゆく、その他)支出しているもの23%
で、その月額は100円, 200円, 500円等。

(15) 煙 草 費

支出しているもの5名で、その1ヶ月の額は、500円 / , 600円 / ,
1,000円 /

ダンス費、酒代等の支出はここではない。

(16) 貯 蓄

1ヶ月における貯蓄の状況はつぎのようである。

イ、貯蓄しているもの 24%

ロ、貯蓄していないもの 76%

(貯蓄額は)

300円(6)～200円(3)～50円, 160円、550円, 各1、

8. 健康について

(1) 既 往 症

ない 65%, ある 35%

(その病名の主なもの)

中耳炎～肺炎～ジフテリヤ～脱腸～心臓病～大腸カタル～盲

膀胱 ～ 日射病 ～ 脚気

2. 現在の健康への自信

も っ 62%, も た ぬ 38%

(も た ぬ わ け)

頭痛が多い ～ 体質が貧弱だ、胃腸がよわい ～ 疲労しやすい
作業にほこりを喰い、肺にわるいから、汗をかき疲れる ～ 時々腹
汗をかく、胃がわるく毎日をゆううつに過している。胃腸と心臓
がわるい ～ 胃けいれんを起す。

健康への不安をもちつゝ、生活しているものは案外に多いし学業と労働を
年を通じて行っているこれら青少年に対し健康管理、保健指導の配慮は、
とくに積極的に取上げられねばならぬとおもう。

3. 作業につかれるや

つかれぬ 23% 多少つかれる 77% ひどく疲れるの

4. いつ、どこがつかれるや

つかれるときは午後、帰宅后等が多く、つかれる箇所は休全体、眠、右
手、上半身、腰、足、肩、首、手等をあげている。

5. 保健のために何かやっているや、

やっていない 44% やっている 46%

(そのやっている種類は) スポーツ、体操、年一回の身体検査、ビタミ
ン注射、衛生の勉強、回虫駆除等である。

体操、年一回の身体検査等はおそらく全員に課されているものだらう。
たゞそれが、自己の保健増進のためと、正しく意識されていないところにも
んだいがある。

6. 職業について

1. 現在の職業に満足しているや

い る 78% い な い 22%

(いない理由は)

全工程の作業を覚えたいからという理由がもつとも多く、(夏の仕事
の暇な時いろいろな工程を覚えたいという希望もある。) その他は自分

の個性に合つた仕事をやり度い、給興が足りぬ、体が弱い等となつてゐる。

2. 現在の取業が自分に適しているや

い る 81% い な い 19%

(い な い 理由 は) 体が弱い ～ 女の子の仕事だから ～ 兄さんが印刷工だから ～ 将来の志望へのつながりがないから、等

3. 自分の技術に自信をもつや

も つ 85% も た め 15%

(その理由は) まだ経験が足らぬ。～ 尚研究の余地ありが最も多く、その他は、あとからあとから新しい問題がわくから ～ 同じ作業でも型が変ると能率が落ちるから ～ 作業がむずかしい等となつてゐる。

4. 作業が楽しく出来るや

出 来 る 86% 出 来 ない 14%

(その理由は) 取場に気の合はぬものがある。下級生にばかり用を言いつける等。

5. 取場に不満があるや

な い 70% あ る 30%

(その理由は) 水道、便所、食堂の工生設備を完備して欲しい、が多く、その他は作業場の設備が不十分だ、階級的であり、待遇がわるい～ はつきり言えぬが不満がある等。

6. 将来の志望は

会社の存在価値ある人間になり度い ～ 会社の幹部になり度い (2)

この取業で最高权威者になる ～ 装甲師になるためミシンを覚えたい (2)

靴店開業 ～ 立派な製靴技術者になる ～ 安定した生活におくれるようになりたい。～ 立派な社会人 ～ 外交官になりたい ～ 自由労働者、

音楽家になりたい ～ 文化面の仕事がしたい等

取業への不満は取種が細分化されてゐることについてがもつとも多い、ここに生産経営と教育実習の悩みもあるわけであるう。

取場への不満は環境整備の点が多いようであるが、経営と教育とを両立してゆく運前上、ここで、それらの不満の点は多くあるようだ。その他実験設備等にもかなり困難しているようだ

将来の志望では、工場の幹部になる、この取業で最高技術者になる、靴店を開業をする等が多いが、外交官になる、音楽家、文化面の仕事がしたい等

の希望者もある。

10 学 習 について

(1) 学習と作業との関連

オ 九 表 学習と作業との関連

よく関連している	40%
多少関連している	54%
全然関連していない	6%

ここでも尚、学習と作業とが充分関連していない回答が多いのは、(オ 九 表) この学校の担当者がカリキ

ュラムの内容、編成にもつとも苦心して合はせて、生産教育における、もつとも重要な具体的課題を提出しているとおもう。少数の現物実務を兼ねた教師のほかの、多くの外部よりの嘱託講師が、どれだけ作業現場、青年たちの労働生活に理解をもつて、その教授、講議をもつているかも問題であろう。

(2) 学習をつづけるための生活上の無理

オ 10 表 学習のための生活上の無理

無理はない	45%
レクリエーションの時間がない	23%
睡眠時間が足りなくなる	12%
よくねむれぬ	15%
過労になる	5%

一般の取場から、その取場外の夜学校等通っているもの、大部分は、食事、睡眠等の不規則や、過労等を上げている

のに対して、この学校形体では当然のこと乍ら、学業、労働をつづけるうえに無理がないと断定しているものが約半数(オ 10 表)で、過労になる等は僅少である点等、注意されてよいとおもう。

(3) 学習が自分の生活にどう役当っているか

オ 11 表 学習が自分の生活にどう役立っているか

技能が上達する	24%
知識が高まる	20%
教養が高まる	19%
将来役立つと思う	19%
生活が楽になる	6%
人格が高まる	4%
仕事がやりよくなる	4%
研究心が満足される	4%
大して役立たぬ	0

オ 11 表

(4) 卒業後の志望は

表ノ2 卒業後の志望

現在の取業でよい	57%
待遇を豊てもらいたい	12%
取場を豊てもらいたい	12%
事務の仕事に豊りたい	6%
販取したい	9%
わからぬ	4%

(表ノ2 表)

一般の取場からの夜学校
通学者には、現在の取業
と、通学のための単なる
手段としているものが多
く見られるのに反しここ
では、少数者をのぞいて

取業と学業とが不可分に密着している。これは労働青年教育の一つの成功
である。こんごはこの労働と取業の中から、いかに人間が育てられるか
問題である。単にその技能者でなく、――

ノノ 自分の生活をもつとどうしたいか

これについての記述はつぎのようにみられる。

如何なるときにも向上したい ～ もう少し時間的に余ゆうをもちたい ～
健康を保ち明朗な生活がおくりたい ～ 現在の自家は陰気くさい、洋間七分、
日本間三分位の快的な家に改築してつくらしたい ～ 収入の半分を旅行や娛
楽に、他の半分で食費、貯金、その他の諸費にあて、やつてゆけるようにな
りたい ～ 今の生活では最低生活も出来ない。勤務后二年で月収3,000円
では明るい生活も出来ぬ。月5,000円位の収入が欲しい。(ノグオ～二年生) ～
もう少し文化性のある生活がしたい。水準より低い収入では喰うだけがやつ
とである ～ もつと多くの眞の友だちをもつて生活してゆき度い ～ より高
い社会的地位と經濟生活を確立したい ～ 經濟面を確立してすべての支出を
自分でまかないたい ― 等。

第二章 工場学校の予で

ノ 読書について

ノのよむ本の入手

学校の図書館を利用して	66%
外部の図書館を利用して	7%
自分で購入して	14%
友人から借りて	13%

(2) 読書は

毎日する 35%、毎日読めぬ 52%、ほとんど読めぬ 13%
(ほとんど読めぬわけ)

読書はきらいだ～時間がない～眼が悪いため読書に興味をもてめ
等

(3) いつどこでよむ

自家または寮で夜よむがもつとも多く、その他は母校の図書室で、学
校、電車の中である。

(4) 読書の種類

オノ3表 読書の種類

日本現代文学	47%	外国文学	30%
大衆文学	10%	評論	5%
教育心理	4%	戦記文学	2%
哲学	2%	経済思想・技術	0

学校での勉強時の読書の種類はオノ3表のとおりで、ここでも経済思
想、科学技術等の読書はみあたらない。

読んでいるもの、主な書名はつぎのとおり、

次郎物語～こぶ～自甲学校～細雪～和解～暗夜行路～太
陽のない街～生れ出づる情み～小さき青へ～生活の探究～蟹工
船～風にそよぐ草～

レ・ミゼラブル～罪と罰～水の上～アンナ・カレニナ～にん
じん～ファスト～光りあるうちに光りの中を歩め～復活
哲学初歩～少年期～映画の見方～アメリカの良心
大岡政～佐々木小次郎～サイパン等

ここでは学校図書館の図書調入がかなり厳密に選択して行はれ、国語
科担当教師を中心に読書会が行はれ、自づと読書指導の役割りも行はれ
ている。

2. 習っているもの

珠算 2, 洋楽 5, ピアノ / ダンス /

3. 映画館、劇場、寄席等の利用状況

の 映画館

(1) 映画をみているもの 91% 映画をみていないもの 9%

(2) 利用の回数 平均 / ヶ月 2.3 回

(3) とくによかった映画としてあげているもの

4 (舟重) 月世界征服～驍馬車～若草物語～家路～無防

傾都市 ～ 黒水仙 ～ 赤い靴 ～ 自転車泥棒 ～ 靴みがき ～ ジヤ
ンターク ～ イヤリング ～ ウルグ ～ オルフエ等
(依) (日本国) 自由学校 ～ 愛と憎しみの彼方へ ～ 台葬 ～ 佐々
木小次郎 ～ 泥にまみれて ～ 少年期等。

(2) 劇場

みたもの (鶴屋劇場) /。その他は劇場をみていない。

(3) 寄席

きいたもの 2名 (柳橋, ほか)、その他はきいていない。

4 音楽会

きいたもの 18%

(その種類は) ハーモニカ演奏会 5 ～ ギター演奏会 / ～ 軽
音楽 / ～ オリンピック基金募集音楽会 /。

5 美術展覧会

みたもの 18%

上野美術館 2名 ～ マナス展 3名 ～ 関西美術 / / ～ 二科展 /
～ 三越美術展 / 等。

6 講演会

講演会は逆巻演説をきいたもの少数あるのみで、文化関係の講演、
時局関係の講演等はきいていない。

7 社会教育施設の利用状況

イ 公共図書館を利用したもの 18%

上野図書館。三回利用者 5、～ 二回利用者 3、～ 一回利用者 /

ロ 博物館を利用しているもの 22%

国立上野博物館 / 回 4名 ～ 2回 3名

逓信博物館 / 回 1名 ～ 3回 1名

ハ 動物園をみているもの

上野動物園 / 回 7名 ～ 2回 5名 ～ 3回 1名

ニ ハイキング、旅行

行っているもの 18%

(行き先は) 武蔵小金井へ花見 3、～ 稲田登戸 / ～ 向ヶ丘遊
園地 /、～ 長トロ / ～ 江の島 /、等

ここでは、海へ山へ等の行楽は殆ど見られず、近郊のハイキングが多
く、それも極く少数である。

7 宗教行事

教会、救世軍集会へ出たもの各ノで その青年たちの生活にも宗教的
的なものは殆どない。

10 クラブ、同好会、趣味の集り、

図書部の集り、魚釣り大会、将棋大会、放送会館演芸クラブ等へ少
数のものが出席してゐる。文化、教養のためのクラブ活動等の動きは、
ここの青年らの生活の中にもまだ育っていない。

11 スポーツについて

イ、やっているもの

やっている 75% 何もやっていない 5%

何もやっていないものは5%で、スポーツはここでは一般化してい
る。その内容は

ロ、いまやっているもの

卓球 35% 野球 33% バレー 24% その他8%

(その他は、柔道、機械体操、レスリング、スケート、スキー等)

ハ、やりたいもの

テニス、バスケット、柔道、野球、水泳、ラグビーが多く、その
他には陸上競技、サッカー、拳闘、スキー、スケート等がある。

ニ、やりたいが出来ないもの、

水泳、バスケット、けんとう、野球、テニス等が上げられている。

12 ラジオについて

毎日きく 64% 時々きく 26% 殆んどきかない 10%
(きかないわけ) 家にラジオがない 3% 寮にラジオがない2等
(主にきく番組は——その順位——)

1. ニュース, 2. ニュース解説 3. 放送劇 4. 音楽放送
5. 娯楽番組 6. 新しい道, 7. 私たちの言葉、それにつづく
ものは、日曜娯楽版、音楽の泉、話の泉等。

13 新聞について、

毎日一種類よむ 51% 毎日二種類以上よむ 32% 毎日
三種類以上よむ 10% 殆んどよまない 7%
(よまないわけは、新聞をとっていない等)
(もっとも興味をもつ面は)

社会面 30%、スポーツ記事 32%、文化面 21%、政
治面 13% 経済面 6% 連載小説 8%

14 所属している団体

学校内の生徒会、文化、共済、運動各部のほか、社会的団体に加入しているものはない。

15 趣味、嗜好

スポーツ 26%、読書 15%、映画 14%、音楽 15%、釣 10%、旅行、ハイキング 4%、工作 3%、文学 3%、演劇 3%、その他 9%
(その他は、将棋、カメラ、浪曲等である。)

16 自分の研究したいこと。

自分の研究したいことについて、記入者は約45%で、つぎのように見られる。

世界の歴史 ～ 音楽(ギターについて、楽器等について等あり。) ～ 青年の心理について ～ 疼痛と情熱の音の表現法 ～ 植物の生活状態 ～ 電気化学 ～ キリスト教 ～ 製靴材料について ～ 機械の構造 ～ 電気通信 ～ 現在の作業の向上について、～ 幼児と少年の心理 ～ 純真さについて、～ 物理学 ～ 将棋、～ 珠算等。

17 最近においてとくに生き甲斐を感じた日。全体の約0.6%にあたる3名のみ記入あり。その他は「なし」または黒記入である。

その記入例は、

この学校へ入って将来に希望をもつたとき、友だちと鎌倉へ行ったとき ～ 底村に入り自分で れるようになったとき。

18 その他の傾向より

(1) 私の愛読書

友情(武蔵小路) ～ 愛と認識の出發 ～ 出家とその弟子 ～ 主治の探求 ～ 三太郎の日記 ～ パンドラの小匣 ～ 暗夜行路 ～ シエスピアの作品 ～ 返 ～ 歌石作品 ～ 映画の本 ～ スポーツの本。～ 探偵小説 ～ アンデルセン童話集 ～ 聖書等

(2) 私の宗教

キリスト教 3、 佛教 1 その他四 なし

(3) 私の尊敬する人物

福沢諭吉 (4) ～ リンカーン (2) ～ 現在の学校の校長先生 ～ ペスタロッチ ～ 異性のうちの一人 ～ 三宮尊徳 ～ 野口英世 ～ レニン ～ 母校のある先生 ～ キリスト等

(4) 私の理想

健康を保持して社会に貢献出来る人になること ～ 世界から戦争の放逐 ～ 明朗にして健康なる生活の出来る教養人となること。～ 生活の合理化 ～ 人格育となる。～ 他人を愛し、みんなから慕はれる人になること ～ よき技術者 ～ 技師 ～ 会社の幹部等。

(木) 私の信念

仕事を成しとげる ～ 確実な進歩 ～ 等。

(ハ) 支持する政党、政治家

社会党 ク 自由党 4 民主党 2

吉田 茂 (2) 鳩山 一郎 (2) 片山 哲 (1)

(イ) 組合運動についての意見

御用組合でない自主性のある組合たること ～ せん勤着のひきづられない組合になること ～ 話しあいによる争議の解決 ～ 現在の組合は御用組合で言いたいことも言えないようだ。早く力のある組合にすることをのぞむ ～ 学校と組合の連絡をよくし、もっと団結をつよくしたい ～ 等。

現在の生徒は、本社工場の組合員ではない。組合にかわる生徒会があり、その委員会が、学校工場経営者との意見交換、接衝等にあたっている。しかしづれは大部分のものが、本社工場の組合になる。学校と組合との連絡をよくして行動したい、はみんなの希望であらう。

(ウ) 青年運動についての希望

「自己確立」 ～ 「真に自分たちの生活安定と自己修養のための運動を希望」の二名以外は回答なし。青年運動についての関心も期待も全般的に乏しい。